○司会 それでは、本日のヒアリングを始めさせていただきます。

最初は、東京都社会保険労務士会の皆様でいらっしゃいます。

（東京都社会保険労務士会 入室）

○司会 ありがとうございます。係員のご案内いたします。お席にお進みいただきますようお願い申し上げます。

それでは、早速ではございますが、これよりヒアリングと意見交換を始めさせていただきます。

冒頭、知事から一言お願いいたします。

○小池知事 社労士の皆様方、いつもお世話になっております。

働き方改革、そしてカスハラ対策など、労働や雇用の現場は転換期を迎えてると言ってもいいかと思います。皆様方には企業の人事、そして労務管理のコンサルタントを通して、労働者の福祉の向上などにもご尽力いただいております。ありがとうございます。現場の声を伺わせていただいて、ご要望も含めてお伝えいただければと思いますので、お始めください。

○東京都社会保険労務士会（寺田会長） 皆さん、こんにちは。ご紹介いただきました東京都社会保険労務士会会長を仰せつかっております寺田でございます。本日は公務ご多用にもかかわりませず、このような機会を設けていただき、また、お時間を割いていただきましたこと、誠にありがたく心より感謝申し上げる次第でございます。どうもありがとうございます。

では、早速でございますが、要望書の要旨についてご説明させていただきます。

小池都知事におかれましては、9月の所信表明で、時代を追いかけるのではなく、時代を追い抜く、そして人を育み、人が輝き続けられる明るい未来を築くとの力強いメッセージを発せられました。スピード感を持って地球規模の課題解決を目指し、持続可能な都市、東京を実現すべく積極的な施策を推進されていくことに心から敬意を表します。

私たち社会保険労務士は、SDGsの目標である働きがいも経済成長も、全ての人に健康と福祉を実現を目指し、これまで社会保険労務制度が日本における持続可能な労働・社会保険諸法令及びその制度の推進に寄与してきたという実績とともに、さらなる活動を通して持続可能な社会の実現に向け、サポートを持続しております。

当会は、会員である社会保険労務士の活動を通して、人の心に寄り添い、人を大切にする企業づくりから、人を大切にする社会の実現を目指して活動しております。今後も働き方改革を重点目標に掲げ、引き続き積極的に職場環境改善に取り組み、ライフ・ワーク・バランスを促進させたいと考えておりますので、ご理解賜り、労働・社会保険諸法令の専門家である社会保険労務士をご活用いただきたく、本日は2点要望をお願いしております。この実現につきましては、ご支援賜ればと考えておりますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。

要望事項の1点目は、労働条件調査における社会保険労務士の活用についてでございます。

す。これにつきましては、東京都社会的責任調達指針における社会保険労務士の活用をお願いしたいということでございます。

社会保険労務士による労働条件調査は、地方自治体が行う公共事業の実施委託を受けた企業について、労働・社会保険諸法令に基づく規程類、帳簿書類の整備状況を確認するとともに、労働者へのヒアリングにより労働条件が確保され、労働者が生き生きと働くことができる職場となっていることを確認するものでございます。労働者が安心・安全に働ける職場こそが業務受託企業が提供する都民サービスの質の向上とともに、東京都のライフ・ワーク・バランスにつながるものと考えておるわけでございます。

今年度から東京都は東京都社会的責任調達指針を策定されました。労働の分野では、適正な労務管理と労働環境の確保を受注者に求めております。この実効性を担保するために実地調査を行うことは重要な取組であると考えております。

つきましては、東京都社会的責任調達指針に関するチェックリスト、これの取組状況を確認するために、当会が推薦する社会保険労務士を活用した労働条件調査の活用をご検討願いますようお願いいたします。

2点目は、学校教育における労働・社会保険等の教育（出前事業）の実施について、社会的・職業的自立支援教育プログラムの活用拡大をお願いしたいということでございます。

昨今、雇用に関するミスマッチや深刻な人手不足による労働者の過重労働問題、さらに若者がSNSなどで募集されるヤミバイトに誘い込まれ、犠牲者、犯罪者となることが社会問題となっており、労働者にとって自分の身を守るために、正しい法律知識の習得が必要であると認識しております。

高等学校学習指導要領が改訂され、職業選択、雇用と労働問題、少子高齢化社会における社会保障の充実、安定化について記述があり、東京都は、東京都子供・若者計画において、法に関する教育の推進、労働法制の普及等に関する取組を盛り込んでいるところでございます。学校教育における労働・社会保険等の教育の実施につきましては、令和2年6月に都議会に請願し、採択いただいております、社会保険労務士による出前事業の実施校も増えてきております。

つきましては、社会的・職業的自立支援教育プログラム事業の積極的な活用により、社会保険労務士による出前事業を、より多くの都立高校や特別支援において活用していただくこと、特に卒業後すぐに就職する場面が多い工科高校や商業高校での積極的な実施について要望するものでございます。

以上、2点につきましてご検討の方よろしくをお願いいたします。ご清聴ありがとうございました。

○司会 どうもありがとうございます。

それでは、まず知事からコメントをお願いいたします。

○小池知事 2点、大きなご要望があったかと思えます。私のほうから、出前授業につい

て一言申し上げたいと思います。

やはり子供たちが早い時期から働くことは一体どういう意味があるのかとか、それから社会の様々な仕組みを学びながら、将来を生き抜く力を確実に身につけていくということが重要だと認識しております。そうした内容について高い専門性を有しておられる社会保険労務士の皆様方からご協力を得ながら、子供たちが学ぶための授業を実施しておりますので、引き続きご協力をお願いしたいと思っております。

もう1点のご要望については、局長のほうからお答えをしたいと思います。

○財務局長 1点目の労働条件調査における社会保険労務士の皆様方の活用につきましては、私のほうからお話をさせていただきます。改めまして、財務局長の山下と申します。どうぞよろしくお願い申し上げます。

お話をいただきました東京都社会的責任調達指針でございますけれども、これは今年の7月に策定をしたものでございます。この中でお話がありましたように、事業者に対して労働基準法を含む法令などの遵守を義務的事項といたしまして、設定をしました。そして、誓約書の提出でありますとか不遵守に関する通報の受付の窓口を設置するという運用を考えてございます。指針につきましては、来年の4月から適用の開始を予定してございまして、運用に当たりましては、関連する分野の専門家で構成する助言委員会からのアドバイスを受けながら、取組を進めていくこととしておりますが、詳細につきましては、現在検討をしているところでございます。来年の4月からの適用開始でございまして、なるべく早く運用の詳細についてまた公表してまいりたいというふうに思っておりますので、引き続きこの制度のご協力とご理解を賜ればというふうに思っております。

○司会 ご要望いただきました2点につきまして、東京都としてお話をさせていただきました。よろしゅうございますでしょうか。ありがとうございます。

○小池知事 あと、こちらお持ちいただけるとは思いますけど、2050年の東京のあるべき、また、こんな東京だったらいいなっていうの、皆さんから公募しておりますので、ぜひお声がけいただいて、2050年の働き方ってどうなってるのか、なかなか見当つかないんですけども、こういう東京だったらいいなっていうのを広く募集しております。分析はAIで行っていくということにしておりますので、よろしくご協力をお願いいたします。

今日はありがとうございました。

○東京都社会保険労務士会（寺田会長） どうもありがとうございました。

○司会 それでは、これをもちましてヒアリングを終了とさせていただきます。本日は誠にありがとうございました。

（東京都社会保険労務士会 退室）

○司会 続きまして、東京都信用金庫協会の皆様でいらっしゃいます。

（一般社団法人東京都信用金庫協会 入室）

○司会 ありがとうございます。係員がご案内いたします。お席にお進みいただきますようお願い申し上げます。

それでは、早速ではございますが、これよりヒアリングと意見交換を始めさせていただきます。

冒頭、知事から一言お願いいたします。

○小池知事 八木会長をはじめとする東京都信用金庫協会の皆様方には、日頃より大変お世話になっております。また、今は物価高騰、そして厳しい中小企業を取り巻く経営環境などなど、実際の現場のお話も伺えるかと思えます。また、制度融資をはじめとした資金繰り支援、そして脱炭素化や創業支援など、課題はたくさん山積みになってるかと思っております。それらにつきましてのご尽力について感謝をするとともに、最新の現場のお声、そしてまた皆様方のご提案やご要望を伺いたいと思えます。どうぞよろしくようお願いいたします。

○司会 それでは、都政へのご要望をぜひお聞かせいただきますようお願い申し上げます。

○一般社団法人東京都信用金庫協会（八木会長） 本年6月から東京都信用金庫協会の会長に就任いたしました多摩信用金庫の八木と申します。本日はお忙しい中、例年このような機会を設けていただきまして、厚く御礼申し上げます。

私ども信用金庫は、これまでも東京都さんと連携しながら地域や中小企業に対する支援に尽力させていただいております。しかしながら、地域におきましては、高齢化の進展や中小企業における人材難あるいは原材料価格の高騰など、数多くの課題を抱えております。つきましては、本日は東京都さんをお願い申し上げまして、中小企業、小規模事業者に対するさらなるご支援をお願いいたしたく要望事項を取りまとめてまいりました。詳細につきましては、これから大前副会長より説明させていただきますので、よろしく願い申し上げます。

○一般社団法人東京都信用金庫協会（大前副会長） それでは、東京都信用金庫協会の副会長を務めております城北信用金庫の大前でございます。どうぞよろしくようお願いいたします。

配付させていただきました資料のうち、表紙はかがみ分となっておりますので、1枚おめくりをいただければと存じます。時間にも限りがございますので、ポイントを3項目に絞ってご説明をさせていただきます。

まず1点目は、新事業の創設でございます。現在、都内には中小企業向けの支援機関、数多く存在してございます。事業者が各支援機関を適切に活用するためには、事業者自身が支援機関の特徴を理解する必要があります。このため、信用金庫などが窓口となつて、各支援機関の連携によりまして事業者の経営力強化と資金繰り支援をコーディネートできるような、新たな事業を創設していただきたくお願いを申し上げます。

次に、（2）の経営改善・事業再生に係る連携強化でございます。現在、中小企業、中小規模事業者の経営環境、物価高やエネルギー価格の高騰など、引き続き厳しい状況に置かれております。信用金庫をはじめとする地域金融機関では、早期の経営改善支援に向けた

取組を進めているものの、地域金融機関と支援機関との相互理解と連携強化はさらに求められることかと存じます。これを踏まえまして、公的機関と地域金融機関などオール東京によります支援ができるようなネットワークの構築を検討していただきたいということと、信用保証協会などとの連携を通じて適時適切に資金供給支援を行えるような体制整備をお願いできたらと存じます。

最後に、本会の補助事業に対する予算確保でございます。本会では、今年度より新たに「女性・若者・シニア創業サポート2.0」と「地域金融機関との連携による脱炭素化支援事業」、この2つを、補助事業を実施させていただいております。両事業とも事業開始以降、利用件数が着実に増加をしております。次年度以降も積極的な推進を図ってまいりたいと存じますので、各運営費用の増額など予算措置を講じていただければと思っております。

私からは以上でございます。よろしくお願いたします。

○司会 どうもありがとうございました。

それでは、まず知事からコメントをお願いいたします。

○小池知事 3点ご要望があったかと思えます。

まず、私のほうから、中小企業、小規模事業者への支援の強化についてお伝えしたいと思えます。

ご指摘ありましたように、物価高騰も長期化をしております。また、ゼロゼロ融資の返済がちょうど本格化しているという時期でもございます。経営と金融の両面でのサポートは不可欠と考えております。都におきましては、関係機関と連携いたしまして、事業者の経営の改善を支援している、また、制度融資を通じまして、資金繰りを下支えをしているところでございます。今後とも地域の金融機関の皆様方、また、支援機関や中小企業のニーズに沿ったサービスも提供できるように後押しをしていきたいと、このように考えております。

その他のご要望については、担当の局長のほうからお伝えしたいと思えます。

○司会 それでは、田中産業労働局長、お願いいたします。

○産業労働局長 いつもお世話になっております。

では、産業労働局のほうから、「女性・若者・シニア創業サポート2.0」と、あと「地域金融機関との連携による脱炭素化支援事業」についてお話しさせていただきたいと思えます。

創業にチャレンジする女性や若者、シニアの取組を資金面から後押しすることは、地域経済の活性化につながるものでありまして大変重要だと考えておりますので、引き続き適切に対応してきたということでございます。また、中小企業の脱炭素化に向けた取組につきましましては、地域の実情ですとか、あと企業の状況に詳しい金融機関の皆様方としっかりと連携して進めてまいりたいと考えておりますので、引き続きよろしくお願できればということでございます。以上です。

○司会 お話を頂戴しました点について、東京都として回答させていただきました。よろしゅうございますでしょうか。ありがとうございます。

○小池知事 あと2050年代の東京をみんなで考えて、ちょっと先の話なので、少し発想も変えてと思っております募集いたしております。どうぞ皆様方、お声がけしていただいて、お子さんでも結構ですし、それAIで分析して、ちょっとイメージを出していこうと思っております。ご協力よろしくお願ひいたします。

○司会 それでは、これをもちましてヒアリングを終了とさせていただきます。本日は誠にありがとうございます。

（一般社団法人東京都信用金庫協会 退室）

○司会 続きます、全国認可保育所東京都認証保育所協会、そして日本こども育成協議会の皆様でいらっしゃいます。

（全国認可保育所東京都認証保育所協会・公益社団法人日本こども育成協議会 入室）

○司会 ありがとうございます。係員がご案内いたします。お席へお進みいただきますようお願い申し上げます。

それでは、早速ではございますが、これよりヒアリングと意見交換を始めさせていただきます。

冒頭、知事から一言お願ひいたします。

○小池知事 皆様、こんにちは。今日は都庁までご足労をかけております。

チルドレンファーストも喫緊の課題でございます。その中で全国認可保育所東京都認証保育所協会、そして日本こども育成協議会の皆様方には、日頃より東京都の都政に対しましてのご理解、ご協力、誠にありがとうございます。そして保育所の運営など通じて、子供の健やかな育成、そして東京の子育ての支援にご尽力いただいております。今日は特に現場の声を伺わせていただきたく存じますので、ご提案やご要望も含めてよろしくお願い申し上げます。

○司会 それでは、ぜひ都政へのご要望をお聞かせいただきますようお願い申し上げます。

○全国認可保育所東京都認証保育所協会（毛利会長） 皆様、こんにちは。全国認可保育所東京都認証保育所協会会長の毛利千恵と申します。

日頃より東京都認証保育所及び東京都認証保育所推進連盟に対しましては、多大なご指導、ご支援を賜り、心より感謝申し上げます。令和6年度予算につきましても、新設、拡充とご支援をいただき、重ねて御礼を申し上げます。ありがとうございました。

現場ではもちろんチルドレンファーストということで、子供たちに最善の利益を保障し、保育の質を担保するためには、職員の配置や処遇が重要です。事業者はゼロ歳児の定員割れ、物価高騰などの実質的収入の減少となっております。いまだ認可保育所との差も開いております。東京都独自の認証保育所の特性を生かし、時代に合ったよりよい保育環境の整備ができるよう、お力添えをお願ひしたいと存じます。

本日はどうぞよろしくお願いいたします。

○公益社団法人日本こども育成協議会（溝口会長） 公益社団法人日本こども育成協議会会長の溝口と申します。本日はこのような機会をいただきまして、ありがとうございます。今、毛利さんのほうからもありましたように、東京の子供を育てるために邁進してる次第でございます。

また、東京都認証保育所は、本当に東京から新しい保育をとということで平成13年に始まりましたが、知事がおっしゃるようなダイバーシティーだとかセーフシティー、そういったもののためには、まだまだ我々たくさん活用していただく場があるんじゃないかと。来年度から始まります東京都子供・子育て支援総合計画（第3期）ですけれども、その中でもきちんと東京都認証保育所として仕事をしていきたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。以上でございます。

○全国認可保育所東京都認証保育所協会（毛利会長） それでは、要望書の内容、2と4のところを副会長の久芳より説明させていただきます。

○全国認可保育所東京都認証保育所協会（久芳副会長） 私のほうからご説明させていただきます。3ページ目の2の東京都保育士等キャリアアップ補助金についてというところでございます。

ご承知のように今、保育士採用、非常に大変で、本当にコロナ前から大変だったのがより一層大変になってきたというような状況がございますが、このキャリアアップ補助金、非常に助かっておるんでございますが、ただ一つ、株式会社と社会福祉法人で倍の差が今実質的にはついておりまして、これ10年ほど前から私どもお願いはしておるんですが、何とか株式会社も社会福祉法人と同じように、改善額だけじゃなくて、ほかのところにも、特に今、採用費とかそういったものが物すごくかかるようになっておるんでございまして、そういった部分を含めて使えるような形で、同じようなイコールフットィングで、社会福祉法人と同じような形で認証保育所も含めた、株式会社の認可保育所を含めて何とか同じようにしていただけないかというふうに思っております。株式会社はそれだけでなく税金をたくさん払っておりますんで、そういった面でも非常に不利なところがございますので、何とかそこのところをお願いしたいなというふうに考えておるところでございます。よろしくお願いいたします。

続きまして、次の4番、5ページ目ですね。5ページ目の4番の要支援児童への支援についてと、気になるお子さんの支援についてなんですが、認証保育所での児童発達支援施設の実施を要望しますということで、今まで認可保育園では、この令和5年4月1日、去年の4月1日からそういった形で認可保育園の中で児童発達支援施設がつくることができるようになりました。これ非常にいい制度で、保護者の方はわざわざまちの中にある児童発達支援施設に連れて行ってたっていうのが実情なんですが、それを保育園の中で移動するだけでもできるということで非常にいい制度なんですが、これ私どもの園が東京都第1号の、江東区の園になったんですけども、ぜひとも認証保育所でも同じような制度を実施

させていただければというふうに思っております。

なぜかと申しますと、認証保育所は結構そういった障害のあるお子さんの比率が高いんですね。やっぱり公立の保育園とか社会福祉法人の保育園、株式会社のケースもあると思いますけれども、そういったところで、認可保育園で引き受けられないようなお子さんのお母様が困って認証保育所に連れてくるっていうことが非常に多くて、比率が非常に高いということもありまして、ぜひともそういったところ、それから保護者の中には、やっぱりそういった保育園の中に児童発達支援施設がありますと、直接契約ですんで、そこを選んでくることもできる、そういったメリットもございますので、ぜひとも認可保育所と並んで認証保育所で児童発達支援施設の実施を要望させていただければと思います。以上でございます。

○司会 ありがとうございます。

それでは、まず知事からコメントをお願いいたします。

○公益社団法人日本こども育成協議会（平山事務局長） すみません。

○司会 大変申し訳ございません。大変失礼いたしました。どうぞお話しいただきますようお願いいたします。

○公益社団法人日本こども育成協議会（平山事務局長） 日本こども育成協議会と申しますが、私のほうからは7番目の研修の外部委託と、それから最後の8番目のとうきょうすくわくプログラム推進事業の都全域での実施についてという、この2つについてご要望の説明をさせていただきます。

まず7番目、8ページのほうですけど、研修の外部委託についてです。研修については、これ認可保育所にも限らない話なんですけれども、認証保育所に限らないんですが、保育に従事する職員が大幅に増加しております。保育ニーズも量から質への向上へと移りまして、従事者の質の向上の重要性が一層増してきております。都におかれては、研修に大変力を入れておられて、都職員の場合の研修は新人からベテランに至るまで体系化されて実施されているというふうに思います。もちろん研修については従業員の質の向上という点からは本人の努力と、それから雇用者の支援が重要でありますけれども、子育て支援という公共の福祉の増進という観点からは、民間保育所の従事者に対しても民間の活用と、そのような観点から、保育全体が行っている研修、保育団体が行っている研修についても取り入れていただいて、全体として体系化されたような研修の下に、質の向上に取り組んでいただきたいということの要望でございます。

それから最後、9ページのとうきょうすくわくプログラム推進事業の都全域での実施についてであります。このすくわくプログラムについては、全ての自治体で実施されるように、東京都において、区市町村に対して強力な働きかけをしていただきたいということと併せて、保育5領域に沿ったような事業内容とするようにということ、2つの要望をさせていただいております。

まず1つ目のほうは実施の方法についてですけども、社会福祉法人立の保育所は都が補

助を直接実施して、それから株式会社立等の保育所は区市町村が補助をするというような間接補助方式となっております。この場合ですと、同一の区内で、保育所で都の補助対象施設と区市町村の補助対象施設が混在しておりますので、区のほうを実施しないというふうになった場合には、乳幼児の心の育ちをサポートするというこの事業について、受けられる子供と受けられない子供が出てきてしまうというようなことが懸念されます。全部の区市町村で実施してくれれば問題はないんですけれども、そうなるように都のほうから働きかけをお願いしたいということでもあります。

それから内容についてですが、保育所保育指針で5領域という領域を定めて、これが十分、乳幼児の成長を支えるような指標になっております。このすくわくプログラムを、乳幼児の豊かな心の育ちをサポートするという趣旨の事業でありますので、こういった5領域の趣旨を踏まえたような形で、この事業を実施していただきたいというような内容についての要望であります。

この2点について、よろしく願いいたします。

以上で説明は終わらせていただきます。

○司会 どうもありがとうございました。よろしゅうございますか。大変失礼しました。ありがとうございます。

それでは、まず知事からコメントをお願いいたします。

○小池知事 何点かご要望がございました。私のほうから4番目の要支援児童への支援についてお伝えしたいと思います。

ご承知のように、都は、認証保育所におけます医療的ケア児の受入れ、そしてまた障害児の保育の取組の支援をいたしております。そして今年度からは、認証保育所におきまして、発達障害など特別な配慮や、また支援を必要とする児童の受入れが一層進みますように、新たな補助も開始をしているところであります。今後、認証保育所におけますインクルーシブ保育の推進に向けた検討を進めていく考えでございます。

その他ご要望について各局長のほうからお答えしたいと思います。

○司会 それでは、山口福祉局長、お願いいたします。

○福祉局長 福祉局長の山口です。どうぞよろしくお願い致します。私のほうからは、2点ちょっとお話をさせていただきます。

まず1点目は、保育士等のキャリアアップ補助金の関係でございます。保育士等のキャリアアップ補助金でございますが、保育士等の賃金改善を目的に平成27年度から開始した事業でございますが、全額を賃金改善に充てることを、先ほどお話ありましたけど、基本としております。一方、社会福祉法人につきましては、先ほどお話ありましたけども、賃金改善への充当を前提としない従来の補助制度を再構築しましたことから、人件費を交付対象としまして、そのうち2分の1以上を賃金改善に充当することとしてございます。

なお、都は、令和4年度に国の処遇改善等加算を認証保育所の運営費の補助に組み込みますとともに、今年度から保育士等のキャリアアップ補助金を拡充するなど、都独自の処

遇改善を図っておりまして、引き続き保育人材の確保定着に取り組んでまいりたいと考えております。

それから研修の外部委託の関係でございます。都は、保育施設職員を対象に認証保育所等研修事業、それから保育事業者向け経営管理研修等を実施をしております、職員のキャリアパスなどを見据えた研修機会の確保や研修の充実を図っているところでございます。保育施設職員の資質、専門性のさらなる向上に向けまして一層効果的、効率的な研修実施が可能となるよう検討してまいります。

私からは以上です。よろしくお願いいたします。

○司会 続きまして、田中子供政策連携室長、お願いいたします。

○子供政策連携室長 子供政策連携室長の田中でございます。いつもお世話になっております。

とうきょう すくわくプログラム、9ページのポイントについて説明させていただきます。

とうきょう すくわくプログラム、都内全域展開に当たりましては、実施を希望する保育園、幼稚園などが円滑に取り組める環境を整えるということが重要でございます。このため、特別区長会ですとか市長会、町村会等への説明の機会を捉えまして、事業の実施について働きかけを行っておりまして、今年度は、希望する保育園や幼稚園などが属する自治体の約8割に当たります37の自治体での実施を見込んでおりまして、残る自治体につきましても引き続き働きかけを行っております。また、本プログラムに当たりましては、保育所や幼稚園などにおける指針や要領に沿った取組を行うことを留意事項として定めておりまして、保育所、保育指針等の趣旨を踏まえまして取組を推進しているところでございます。以上でございます。

○司会 お話をいただきました点について、東京都としてお答えをさせていただきました。よろしゅうございますでしょうか。ありがとうございます。

○小池知事 ありがとうございます。

今、障害のある子供がちょっとこう増えてきている、それから小学校1年生から不登校になってしまうとか、もう新しい、これまでなかったような現象も多々起きてきております。大変、皆様方にいろいろとご協力いただかなければならないかというふうに思いますが、どうぞよろしくお願い申し上げます。

それから2050年代の東京についてのご意見、こんな東京であってほしいというご意見を募っておりますので、どうぞ皆さん、子供たちにも聞いていただいて、ご応募いただければと思いますので、よろしくお願い申し上げます。資料についてはまた後ほど。ありがとうございました。

○司会 ありがとうございます。

それでは、これもちましてヒアリングを終了とさせていただきます。本日は誠にありがとうございました。

（全国認可保育所東京都認証保育所協会・公益社団法人日本こども育成協議会 退室）

○司会 続きまして、東京養育家庭の会の皆様でいらっしゃいます。

（特定非営利活動法人東京養育家庭の会 入室）

○司会 ありがとうございます。係員がご案内申し上げます。お席にお進みいただきますようお願いいたします。

それでは、早速ではございますが、これよりヒアリングと意見交換を始めさせていただきます。

冒頭、知事から一言お願いいたします。

○小池知事 能登理事長をはじめとする皆様方にはご足労をおかけいたしております。

今日は、日頃から皆様方ご協力いただいております都政に対して、また、現場での課題やご意見、ご要望を伺う機会でございます。皆様方には、子供たちの健やかな成長に向けてよりよい養育の実践や、また地域社会におけます養育家庭の里親、里子の制度つてありますけれども、理解を深めていく、そして増進をしていくなど、幅広い取組にご協力いただいております。

それでは、早速どうぞ現場のお声、聞かせてください。よろしく申し上げます。

○特定非営利活動法人東京養育家庭の会（能登理事長） 本日は、東京養育家庭の請願要請のために貴重なお時間を割いていただき、ありがとうございます。

私たち里親は日々、里子の健やかな成長と社会自立に向けて努力しております。知事におかれましても、社会的養育の対象のお子さんのために心を砕いていただいております。昨年度お願いいたしました里親認定証につきましては、早速、実現していただきましてありがとうございます。後でお礼を述べたい者がおりますので、後ほど述べさせていただきます。

具体的要望につきましては、それぞれ身につまされる思いをしている者たちが報告させていただきますので、よろしくお願いいたします。

○特定非営利活動法人東京養育家庭の会（山口理事） 東京養育家庭の会理事を務めております山口です。私からは、里親登録の更新期間の延長について要望を申し上げます。

現在、東京都の里親登録は2年ごとに更新が行われており、それに伴い、更新時研修を2年ごとに必ず受講するっていうことになっています。2年は子供を養育している里親にとって短い期間ですし、家庭状況の変化も少ないです。国の更新期間は5年とはなっております。里親の多くも希望していることですので、国の更新期間に近づけていただけるようお願いをいたします。以上です。

○特定非営利活動法人東京養育家庭の会（今井副理事長） 東京養育家庭の会副理事をしております今井と申します。よろしく申し上げます。私のほうからは、高校生の委託費の増額、それから特別育成費の定額払いにお戻しいただきたいというお願いでございます。

先ほど能登から身につまされてるということで、私は中高生の女の子ばかり預かって

まして、ここに書いてあることは大変いつもいつもどうしようかなと思っています。この中に書いてある高校生の一般生活費、これは幼児と全く同額なんです。これが大体5万8,310円というのが、これはもう幼児から高校生まで、みんな一緒でございます。ただ、やはり年代によってかかる金額っていうのは大変違ってきます。

やはり高校生というのは食費、毎日の食事に加え、これ高校生になるとお弁当もかかってくるわけですね。あと、やはり最近は推し活というんでしょうか、流行に、はやりちょっと流される子も多いもんですから、それとしての衣装代、衣類代も結構かかります。また、学校での部活ですね、こうしたものには部活費、これは遠征費から、それからまとまった部活での活動費っていうのは、あと物を使うと洋服代から靴、そうしたものでかかります。あと連絡ツールとしてスマートフォン、これは中高生がスマートフォンって聞かれるとあれなんです、学校からの連絡何かスマートフォン通しっていうのは結構多いんですね。そうしますと、どうしても持たざるを得ないっていうことがありまして、スマートフォンが使用されるという必需品になっております。

それから特別育成費というのがございまして、以前は定額での支払いだったんですけども、これが今、定額ではなくなって、以前から定額で特別育成をいただいている中で、定期代はちょっと別で支給してほしいっていうことを以前から言っていて、それは東京都さんのほうでオーケー出たんですが、その定期代が支払われるようになりましたら、この特別育成費が定額払いから実費扱いということになったんですね。そうしますと、この実費内容が学校ので使われるものに限ると、制服代ですとか学校の事務用品ですとか、参考書とか、そういった教育に関わるものしか使えないということになってまして、先ほどもちょっと言いましたとおり、高校生ですと一般生活費では負えないところがありまして、以前この特別育成費の定額が出ていた頃はまとめて定額出たので、特別育成費は学校で使うようなものでなくても、使えたんですが、それも使えなくなってしまったということで結構負担が大きくなっております。

こういった状況がありまして、里親としましては、この特別育成費と一般生活費の増額をお願いしたいのと、特別育成費は定額払いに戻していただきたいという要望が今回の我々の願いでございます。ちょっと長々とすみません、よろしく願いいたします。

○特定非営利活動法人東京養育家庭の会（四条理事） 東京養育家庭の会理事をさせていただきます四条といたします。私のほうからは、発達障害を抱える幼児さん、児童に特化した塾費の支弁についてのお願いをさせていただきます。

里親に委託されているお子さんの多くは発達障害を抱えております。幼児の頃から発達障害に特化した塾に通わせる、これは実費で通わせてることが多いんですけども、そういう塾に通わせることで大変、子供たちにとって効果が出たとの意見もあります。発達に関しては早期の対応が大切ですので、塾費の支弁をどうぞよろしくお願いいたします。以上です。

○特定非営利活動法人東京養育家庭の会（高木副理事長） 副理事長を務めております高

木と申します。

昨年、知事に中野区の里親認定証のひな形をお渡しして、早速ご採用いただきまして、今持っております。ありがとうございました、本当に。長年の悲願といいますか、特に幼少の里子を預かる里親さんにとっては、特に必需品といいますか、昨年も申し上げましたが、泣くも騒ぐと大騒ぎして、その場から離すのが大変なときに、はた目から見たら、まるで人さらいですから、そういうときに身分証を携帯できるものっていうのは、ぜひとも必要だということですと願っておりました。ですから、今、私がお預かりしてる子はもう高校生になりましたからあれですけども、また高校生になればなつて、養育の難しい思春期でもありますから、いろいろな機関にご縁がある子も出てくる場合もありますんで、そういう場合にも、これはぜひともやっぱり必要なものですので、本当にこれが実現できてよかったですと思ってます。本当にありがとうございました。

それからもう1点、これ有効期限が11年の7月31日になってるんですよ。ということは、せっかくですから、やっぱり研修の期間も2年から5年に延長していただけると、これも整合性もありますので、ありがたいなと思ってる次第です。よろしくどうぞお願い申し上げます。ありがとうございます。

○司会 よろしいですか。ありがとうございました。

それでは、まず知事からコメントをお願いいたします。

○小池知事 何点かのご要望がございました。うち、最初の養育家庭制度に対する要望をいただきました。この件についてお話しさせていただきます。

研修です、里親研修。里親の方に養育の技術っていうんですかね、の向上や社会的養護に対しましての理解を深めていただくという機会にもなりますので、また積極的な受講をお願いしたいところでございますが、里親の方にとって過度な負担とならないことも大切だと思います。こうしたことを踏まえまして、里親の更新期間や、また研修制度の在り方について、里親委託の推進に資するものとなりますように検討していきたいと思っております。

そのほかご要望につきましては、局長のほうからお答えさせていただきます。

○司会 それでは、山口福祉局長、お願いいたします。

○福祉局長 福祉局長の山口です。よろしく申し上げます。私のほうからは、里子の委託費についての2つについてお話をさせていただきます。

まず1点目で、発達に課題があると診断された委託児の方の関係でございます。都は、国に対しまして、障害等の特性のある児童の委託を促進するために、一般生活費の加算など措置費の充実を今、要望をしているところでございます。今後も国の動向を注視しますとともに、要望を継続するなど、里親家庭におきまして児童が持つ課題に対応した養育が行われていくよう対応してまいりたいと考えております。

それからもう1点、一般生活費の関係でございます。都は、国に対しまして、高校卒業後の自立を見据えて、高校在学中における教育に必要な経費について対象経費を拡充するよう要望しているところでございます。また、都は、これまで一般生活費の上乗せ、それ

から生活指導訓練費の加算、それからあと高校生の十分な学習の機会を確保するために、学習塾代の上乗せとか、あと大学や各種学校への入学支度金への支援を都独自で実施をしているところがございます。今後とも委託児童が安心して生活できるように支援をしてまいりたいと考えております。

私からは以上です。どうぞよろしく願いいたします。

○司会 お話を頂戴しました点につきまして、東京都としてお答えをさせていただきました。よろしゅうございますでしょうか。ありがとうございます。

○小池知事 お帰りの際にこの資料をお持ち帰りいただきますけど、2050年代どうあってほしいか。里子さんにも2050年、幾つになってるか、一つ考えてみてもらって、どんな東京にしてほしいかっていうようなご意見などをいただければと思います。どうぞ広くお声かけてください。

今日はどうもありがとうございました。

○司会 それでは、これをもちましてヒアリングを終了とさせていただきます。本日は誠にありがとうございました。

（特定非営利活動法人東京養育家庭の会 退室）

○司会 続きまして、東京都学童保育協会の皆様でいらっしゃいます。

（東京都学童保育協会 入室）

○司会 ありがとうございます。係員がご案内いたします。お席にお進みいただきますようお願いいたします。

それでは、早速ではございますが、これよりヒアリングと意見交換を始めさせていただきます。

冒頭、知事から一言お願いいたします。

○小池知事 本日よりお願いいたします。坂井会長はじめとする東京都学童保育協会の皆様方には、チルドレンファーストを掲げております東京都政にご協力いただいておりますこと、まずもって御礼申し上げます。また、学童保育に通う全ての子供が豊かな時間を過ごす、そのための保育の質の向上や職員の支援をはじめとした政策提言などにもご尽力いただいております。

今日は現場の皆様方からの声を伺わせていただく、そしてまたご要望も含めて伺えればと思っておりますので、どうぞよろしく願いいたします。

○司会 それでは、ぜひ都政へのご要望をお聞かせいただきますようお願いいたします。

○東京都学童保育協会（中山副会長） 東京都学童保育協会副会長の中山と申します。よろしく願いいたします。

まず、知事もご存じのとおりかと思うんですけれども、東京都並びに日本全体で子供たちの数がどんどん減っていく中なんですけれども、小学校においては、いじめだったりですとか不登校、子供の自殺といった問題がどんどん増えていってしまっているような状況でございます。主にやっぱり学校の問題とされることが多いんですけれども、正直、学校

教育自体はよくも悪くもこの30年、少しずつ前進してきたと、そんなに大きく悪くはなっていないと思うんですけれども、放課後の時間っていうのはかなりさま変わりしてしまっています。

30年前、学童保育に通う子、ほとんどいなかったと思うんですけれども、今は1年生でいうと半分ぐらいの子が学童に通っているような状況でして、どんどんどんどん子供たちが増えていく中で、一部の学童では過密な、子供たちが本当に座れないような状態になっていたりですとか支援員が、職員が足りないことから、報道にもあったように、隙間バイトアプリでその日初めて来た大人が子供たちを見るような状況になっています。予算も少ないことから、なかなか常勤の職員が雇用できないというような状況でして、私自身も大学生の頃から学童保育でボランティアを始めまして、今、学童保育ずっとやってるんですけれども、結婚や出産で泣く泣く、ちょっと子供を育てることができないっていうことで辞めていく仲間が多くいます。そういった状況を今回、東京都が認証学童保育制度の創設ということで、恐らく世界で初めてじゃないかと思うんですけれども、学童保育の認証制度、質の問題ということを取り上げていただいて本当に感謝申し上げます。

今、保護者たちからも、保育園まではすごく先生たち、よく見てくれたんだけど、小学校になると、なかなか子育ての支援がないことによって、子育てが辛いとか難しいっていうような状況がありましたりですとか、子供が学童に行きたがらなくなりましたので、仕事を辞めざるを得なかったというような声も聞こえております。東京都におかれましては、認証学童保育制度をはじめとした学童保育の改革によって、今までの子供不在の学童保育になってしまった部分を、まさに子供たちが幸せに過ごして、豊かな放課後の時間で成長できるような時間に、場所にしていくことによって、結果的に保護者が仕事と育児を両立できたりですとか、学童で働く職員たちが誇りを持って仕事を続けられるような、そういったものにしていただきたいというふうに考えております。

では、会長からお願いいたします。

○東京都学童保育協会（坂井会長） この20年間、東京都様には東京都認証保育所、この制度をつくっていただきまして、本当に感謝申し上げます。東京都認証保育所がまさに中心となって、各基礎自治体の人たちがいろんな政策を切磋琢磨して、この制度がどんどんよくなってきてるなと思っております。

一方で、学童は、各基礎自治体が民設、公設民営という形で設置はしてるんですが、今の実態としましては、基本的にはあれするな、これするな、これ駄目、あれ駄目というような制度になっておりまして、基本的に子供たちが制限されるような居場所となっているというのが今、実態でございます。今、皆さんご案内のとおり、小学校1年生でこの約11年間で不登校児が9.8倍に、中3が2.2倍なんですね。今、小学校の低学年なほど不登校が増えていると。基礎自治体で今お預かりしている我々学童では基本的には小学校3年生までなんですね。学校以外で、いかにここで子供たちに夢を与えて、心に火をつけて、なりたい自分に向かっていくというところをやっぱり学童として、当然居場所って

うことも大切なんですけど、夢を与える場というものも大切じゃないかなと思ってます。その上では、子供たちに様々な体験だったり、活動だったり、いろんな経験できる場に我々はしていきたいと思っておりますし、それにはやっぱり職員の質が高くないとできません。

一方で、職員の質をどう上げるかっていうことなんですけど、保育所は今回、処遇改善等も過去最大ということで10%上がるんですけど、この学童との差がどんどんどんどん開いてしまってるというのが今、実態でございます。今、学童の職員っていうのは教員免許を持っていたり、保育士の免許を持ってる人は非常に多いんですけど、保育士との差がどんどん広がることによって、学童では職員の確保っていうのが本当に大変な状況になってます。ですので、質の高い学童を提供する。それには、当然質の高い学童指導員を育成すると。その上では、やはりいろいろな研修ですとか、そういうものも必要となりますので、ぜひきめ細かな制度設計をお願いしたいと思っております。ぜひよろしく願いいたします。

○司会 どうもありがとうございました。

それでは、まず知事からコメントをお願いいたします。

○小池知事 今いろいろと現場の話も伺わせていただきました。待機児童っていう言葉がこの8年間でほぼ解消されつつある中で、一方で、学童はどうあるべきかっていうことは喫緊の課題になっております。また、共働きという言葉も当たり前過ぎてあまり聞かれなくなっているのが現在ではないかと思うんですけども、そういう現代だからこそ、必須のインフラとも言えるのが学童クラブ、そしてその充実に向けた取組が重要であるというふうに考えます。

都は、本年度から都独自の運営基準によります、新たな認証学童クラブ制度の創設に向けた検討を進めているところでございまして、8月にも皆様方にはご参加いただいている専門委員会のほうでの議論を開始をしたところでございます。委員会での意見など踏まえまして、できるだけ早く来年度の早期からの開始に向けて認証の基準や支援の検討を加速していきたいということを考えております。

詳細については、局長のほうからお答えさせていただきます。

○司会 それでは、山口福祉局長、お願いいたします。

○福祉局長 福祉局長の山口でございます。よろしく申し上げます。会長には、私どもの専門委員会にもご参加いただき、非常にありがとうございます。

私からも、認証学童クラブの創設に関して少しお話しさせていただきます。

都は、ご承知のとおり、今年度、創意工夫を凝らした多様なプログラムの提供を行うなど特色のある運営に取り組んで、認証制度の検討にご協力いただく区市町村の取組を今、支援をしてるところでございます。今後こうした区市町村の取組も参考にしながら、今ご議論いただいておりますその専門委員会での議論も踏まえまして、制度の具体的な内容も検討をしっかりと進めてまいりたいと考えております。今後ともぜひお力添えをよろしくお

願います。以上でございます。

○司会 都としてお話をさせていただきました。よろしゅうございますでしょうか。ありがとうございます。お願いします。

○東京都学童保育協会（中山副会長） 東京都におかれましては、保育園に関して本当にここ10年、東京都が国を引っ張るような制度をたくさんつくられて、どんどんどんどん保育園よくなってきていると思っておりますので、学童保育もぜひここで改革していただいて、東京都の学童保育がよくなることで日本中の学童のモデルケースとなると確信しておりますので、ぜひよろしく願います。ありがとうございました。

○小池知事 お帰りの際に、この紙資料をお持ち帰りいただくとありますが、ぜひ子供たちにも2050年、君たちどうすると言って夢を語っていただくようにどうぞ、もちろん皆さんもそうなんですけれども、ご応募いただければと思います。AI分析して、これからの東京の姿、イメージをつくり上げていきたいと思っております。よろしく願います。今日はありがとうございました。

○司会 ありがとうございました。

それでは、これをもちましてヒアリングを終了とさせていただきます。本日は誠にありがとうございました。

（東京都学童保育協会 退室）

○司会 続きまして、東京都民間保育協会の皆様でいらっしゃいます。

（一般社団法人東京都民間保育協会 入室）

○司会 ありがとうございます。係員がご案内いたします。お席にお進みいただきますようお願いいたします。

それでは、早速ではございますが、これよりヒアリングと意見交換を始めさせていただきます。

冒頭、知事から一言願います。

○小池知事 皆様、こんにちは。今日は民間保育協会、宮崎会長をはじめとする皆様方にお越しいただいております。私立認可保育所の運営などを通じまして、子供たちの健やかな育成、そして保育の質の向上のためにご尽力いただいております。また、日頃より都政へのご協力、ご理解、誠にありがとうございます。

それでは、早速ではございますが、現場の実態に精通する皆様方からのお声を聞きたく、また、ご意見、ご要望を直接お伺いできればと思います。どうぞよろしく願います。

○司会 願います。

○一般社団法人東京都民間保育協会（宮崎会長） 東京都民間保育協会の会長をしております宮崎でございます。小池都知事には、こうした予算要望のお時間をつくっていただきまして、本当にありがとうございます。

それでは、早速、私どもの曾木事務局長より、予算要望につきましてご説明させていた

できますので、どうぞよろしくお願いをいたします。

○一般社団法人東京都民間保育協会（曾木事務局長） 改めまして、事務局長を務めております曾木書代と申します。よろしくお願いいたします。

初めに、東京都の保育施策の展開につきまして、かねてから種々ご尽力いただき、厚く御礼申し上げます。特に保育人材確保等定着のための宿舍借り上げ補助事業を継続的に実施していただき、誠にありがとうございます。今後もぜひ継続的に実施していただけますようお願い申し上げます。

また、新たに始まりましたとうきょうすくわくプログラム事業もすばらしい事業だと思います。初めての実施のため、改善点もあると思いますが、すてきな事業のため、今後もぜひ改善しながらも継続していただきたいと、改めて思っております。御礼申し上げます。

ここから東京都における保育の質向上のため、令和7年度に向けた要望事項を取りまとめました。要望は挙げさせていただいたとおりですが、時間の関係もございまして、前後しますが、絞ってお話をさせていただきます。

以前は待機児童が多く、量の確保が優先でした。現在は待機児童が解消しつつある地域が多い中、就学前人口が毎年2万人以上減少し続けて、空き定員が目立ち、園の経営を圧迫しております。こちらは深刻な問題となっております。どうぞ要望書のとおりご検討のほどよろしくお願いいたします。

そして第一子の無償化につきまして、とても思い切った取組として、ぜひ実現していただきたいと願っております。どうぞよろしくお願いいたします。

時代は、保育の量の拡充から保育の質へと優先順位が変化しているように思います。団体といたしましても、園運営者といたしましても、保育の質の向上をより目指していきたいと思っております。そのためには、保育士の質であり、保育士の生き生きとした活動が保育の質の向上に欠かせないものと思っております。それを団体としてもサポートしていきたいと思っております。保育士の生き生きとした活動には働き方改革が必要であり、休み、やりがい、ノンコンタクトタイムの確保、給料アップや専門性の向上のための研修、リーダー層のマネジメントの向上、専門家への委託、ICT化など事務量の軽減など様々な改善が挙げられます。その中でも園運営者の責任として頑張る覚悟ではございますが、園だけでは難しいことに対しまして、どうぞ支援も一緒に、より保育をバックアップしていただきたいと願っております。ぜひ1番目に上げております不適切保育の一因として上げられる保育従事者の抱える問題を改善するために、保育従事者のライフ・ワーク・バランスの実現に向けてのサポート及び多様な職種の保育従事者の増配置への補助など、新たな補助制度やキャリアアップ補助金、サービス推進費の単価増額等をお願いいたします。

76年ぶりに保育士職員配置の基準の改善が行われ、各施設もさらに質の向上尽力しております。しかし、現在の世界の就学前教育を考えますと、保育の質、子供たち一人一人の個性を生かし、主体的な学びへつなげる保育を実現するためには、現状の配置基準ではま

だまだ不十分であり、現状と乖離しているのが実情です。職員を多めに配置してる園もあります。よりその場合、収入同じため、場合によっては職員の給料がその分低くなる可能性があります。現状に即した基準への見直しが急務であると思います。

また、保育所職員数が変わらない中、保育士の業務量が増大しており、働き方改革の観点からも各施設がノンコンタクトタイムの確保や多様な労働の設定を行うことが必要です。保育士等の労働環境を向上させ、保育従事者確保や定着率に有効に結びつくために、新たな補助制度の新設をお願いいたします。

現在も整えていただいているキャリアアップ補助、サービス推進費に関しましても、人件費や物価高騰に合わせて、そしてさらなる保育の質の向上のためにも、単価増額や新たな加算項目の新設をお願いできればと思っております。

また、ICT機器が保育現場にとって真に活用できるランニングコストや買換え等初期導入費用以外にもかかる費用に、継続的な予算措置をお願いできればと思っております。

以上になります。今後も未来を担う子供たちのために、そして、それを支える保育従事者のために、どうぞご検討のほどよろしくをお願いいたします。

○司会 よろしいですか。どうもありがとうございました。

それでは、まず知事からコメントをお願いいたします。

○小池知事 それでは、まず私のほうからは何点かのご要望のうち、4番目の保育料の無償化の実現ということでいただいております。

都は、子供を二人以上育てたいと願う方々の経済的負担を軽減しようということから、令和5年の10月から独自に第二子の保育料の無償化に取り組んでまいりました。望む人、誰もが安心して子供を産み育てることができ、そのような社会の実現に向けて第一子の保育料無償化についても具体的に検討していきたいと考えております。

その他のご要望については、局長からお答えいたします。

○司会 それでは、山口福祉局長、お願いいたします。

○福祉局長 福祉局長の山口です。どうぞよろしく申し上げます。私からは、3点お話をさせていただきます。

まず1点目は、定員割れ対策のところでございます。都におきましては、保育所が零歳児の空き定員を1歳児の受入れに活用できますよう、定員変更を行う取組支援をしておりますほか、あと空きスペースを活用しまして、子供を一時的に受け入れる取組も支援をしております。また、保育所は、保護者の就労等の有無にかかわらず、児童を定期的に預かり、保護者以外の多くの者と関わることで子供の成長を支援する取組、これも支援をしております。今後も、空き定員等を活用した保育所の取組に対する支援の充実を図ってまいります。

次に、保育従事者のライフ・ワーク・バランスの実現に向けてのサポートなどがございます。都は、これまでも保育士の職場環境の改善に向けまして、保育補助者等の雇用に係る経費を補助しておりますほか、あと子育て推進交付金などによりまして、自治体を通じ

て職員の増配置などを行う保育所を支援しているところでございます。また、今年度から保育の質のさらなる向上に向けまして、キャリアアップ補助事業や研修参加代替職員確保補助事業、この拡充も行ってきたところでございます。今後も保育の質の向上に向けた支援の充実を検討してまいります。

最後に、ICT機器の保育現場における活用のところでございます。都は、書類作成などの業務負担の軽減に取り組む保育所に対しまして、デジタル化の推進に向けた支援を行っているところでございます。また、保育所におけます補助金申請の簡素化に向けてオンライン申請の活用も促進をしているところでございます。今後より一層、現場の負担の軽減を図るために、ICT活用が進むように支援の充実をしっかりと検討してまいります。

私からは以上です。よろしくお願いいたします。

○司会 ご要望につきまして、都としてお話をさせていただきました。よろしゅうございますでしょうか。ありがとうございます。

○小池知事 ありがとうございます。

今日、資料として2050年代の東京のイメージ、こうあってほしいなっていうようなご意見を今、広く募集しておりますので、これからの東京の姿、皆さんとともにつくっていきたいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

今日はありがとうございました。

○司会 それでは、これもちましてヒアリングを終了とさせていただきます。本日は誠にありがとうございました。

（一般社団法人東京都民間保育協会 退室）

○司会 続きまして、東京都学童保育連絡協議会、そして三多摩学童保育連絡協議会の皆様でいらっしゃいます。

（東京都学童保育連絡協議会・三多摩学童保育連絡協議会 入室）

○司会 ありがとうございます。係員がご案内いたします。お席にお進みいただきますようお願いいたします。

それでは、早速ではございますが、これよりヒアリングと意見交換を始めさせていただきます。

冒頭、知事から一言お願いいたします。

○小池知事 本日は、古橋会長、別府会長、そしてまた専門委員会にご出席いただいている高橋様はじめとする皆様にご参画いただいて、お越しいただきました。日頃よりの都政へのご協力、ご理解、誠にありがとうございます。そして学童保育の普及、発展のために保育内容の充実を図る研究をしていただいたり、また、指導員の質の向上などもご尽力いただいておりますことを感謝申し上げたいと存じます。

学童保育、非常に注目されている分野でございます。今日は現場の実態に精通する皆様方からの直接のご意見やご要望を伺えればと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。

○司会 それでは、都政へのご要望をお聞かせいただきますようお願いいたします。

○東京都学童保育連絡協議会（古橋会長） 東京都学童保育連絡協議会会長の古橋です。本日はどうもありがとうございます。

○三多摩学童保育連絡協議会（別府会長） 三多摩学童保育連絡協議会の会長の別府と申します。本日はどうもありがとうございます。よろしくをお願いいたします。

○東京都学童保育連絡協議会（田島副会長） 本日はお時間をいただきましてありがとうございます。私は東京都学童保育連絡協議会副会長をしております文京区の保護者の田島茜と申します。どうぞよろしくをお願いいたします。小池都知事をはじめ所管課の皆様には東京の学童保育、施策の充実に向けて日頃からご尽力いただき、感謝いたします。

学童保育は、特に放課後の時間に我が子によりよい生活の場を保障したい、そのことを通して安心して働きたいという働く保護者の願いから生まれました。学童保育の子供たちは働く保護者の意思と選択で入所してきた子供たちです。でも、自分の意思と足で毎日、学童保育に帰ってこなくてはならない子供たちです。そんな子供たちの放課後の生活の場が学童保育です。遊びを中心とした日々の生活の積み重ねの中で、指導員や仲間との信頼を築きながら、毎日ただいまと帰っていける生活の場としてその質を保ち続けるためには適正な集団の規模、指導員の複数体制と継続的な関わり、専用施設、保護者の関わりなど幾つもの条件があると、私たちは考えています。学童保育に対するニーズが増す中、量とともに質の面でも向上を図ること、そして子供の放課後の生活の場の在り方について社会的な合意にしていくことが必要な時期に来ています。

東京都学童保育連絡協議会、三多摩学童保育連絡協議会では、東京の学童保育が、学童保育を必要とする子供一人一人にとって、子供時代の生活と成長発達を保障する生活の場であり続けることを願って要望書をまとめました。本日は放課後の生活の場の量の問題、そして質の問題の両方に特に関わってくる要望に絞って、2つほどご説明させていただきます。

まず1つ目は、東京都連協の要望書の5点目です。認証学童クラブ制度の創設へ向けて現在行われている有識者から成る専門委員会には、当連絡協議会からも現役の指導員が委員として参加させていただいてることに感謝いたします。私たちは、冒頭述べたような条件を満たしながら、生活の場の役割を果たし続けていくためには、本来、運営主体がどこにあっても公的責任の下で質を確保し、担保し続けていく必要があると考えています。

そこで本件に関しては、1、児童、保護者、職員の視点で充足した質の高いサービスを検討される際には、子供にとっての生活の場の質の確保の観点を第一にさせていただきたいということ。2、各認証学童クラブが運営主体にかかわらず、実施主体である各区の公的責任の下で行われる制度設計にさせていただきたいということを要望させていただきます。これが1つ目です。

続きまして、東京都連協の要望の7点目、三多摩連協の要望の1の（2）です。2023年8月31日、こども家庭庁、文科省の連名で出された通知文の待機児童の解消等に向けた学

校施設の活用等については、「余裕教室の活用が見込めない場合には、学校施設の一時的な利用（タイムシェア）を中心に検討する必要がある」との一文があります。私たちは、子供たちが安心して帰ってこられる学童保育であるためには、毎日決まった専用室の存在は非常に重要で、例えば学校の事情によって帰る場所が日々変わる可能性や、場所の確保さえもできない日が出てくる可能性もあるタイムシェア方式は不十分だと考えています。

そこでこの通知を踏まえた区市町村の動きに対しては、小学校内に学童保育の専用室を確保しながら、活動等の幅を広げるために、さらにその他の学校施設等も利用しやすくすることにつながるよう、各区及び各教育委員会へ強く働きかけていただくことを要望します。これが2つ目です。

以上、東京の全ての学童保育が必要とする全ての子供たちにとって、ただいまと帰っていきける生活の場であり続けることを願って要望させていただきます。小池都知事におかれましては、チルドレンファーストの視点から、これからも学童保育への支援をどうぞよろしくお願いいたします。以上となります。

○司会 どうもありがとうございました。

それでは、まず知事からコメントをお願いいたします。

○小池知事 こちらの番号で5番目にあります認証学童クラブの制度の創設についてでございます。

今やもう共働きが当たり前の現代でございます、必須のインフラとも言えるのが学童クラブで、その充実に向けた取組は重要でございます。都は、今年度から都独自の運営基準によります新たな認証、学童クラブ制度を、この創設に向けました検討を進めておまして、8月に皆様方にもご参加いただいている専門委員会のほうでの議論を開始したところでございます。委員会での意見、また、実施主体であります区市町村の実情も踏まえまして、来年度早期からの開始に向けて認証の基準、そしてまた支援の検討を加速してまいりる考えでございます。

その他のご要望については、局長のほうからお答えさせていただきます。

○司会 それでは、山口福祉局長、お願いいたします。

○福祉局長 福祉局長の山口です。どうぞよろしくお願いいたします。私のほうからは、専用室を設けるように区市町村に働きかけることにつきましてお話をさせていただきます。

都におきましては、学童クラブの整備を進めるためには、施設の新設や、あと改築などに係る経費のほか、賃貸物件を活用する場合や賃借料の補助を今行っているところでございます。また、都と区市町村との間で学校施設を活用した学童クラブなどの取組について、いろんな協議をしておりますとともに、好事例の情報提供ですね、情報提供という、情報共有も行っているところでございます。今後も区市町村としっかり連携をしながら、子育て家庭を支援する環境整備の充実にしっかり取り組んでまいります。

私からは以上です。どうぞよろしく願いいたします。

○司会 特にお話をいただきました2点について、東京都としてお答えをさせていただきました。よろしゅうございますか。ありがとうございます。

○小池知事 よろしいですか。皆様方お持ち帰りいただく資料の中に、こちら入っております2050年の東京、どんな東京になってほしいか、できればお子さんの声も聞いていただければと思います。多くのご意見いただいて、AIでまとめて未来の図を描いていきたいと思っております。よろしく願いいたします。今日ありがとうございます。

○司会 それでは、これをもちましてヒアリングを終了とさせていただきます。本日は誠にありがとうございました。

（東京都学童保育連絡協議会・三多摩学童保育連絡協議会 退室）

○司会 続きまして、東京私立初等学校協会、そして東京私立初等学校父母の会連合会の皆様でいらっしゃいます。

（東京私立初等学校協会・東京私立初等学校父母の会連合会 入室）

○司会 ありがとうございます。係員がご案内いたします。お席のほうにお進みいただきますようお願いいたします。

それでは、早速ではございますが、これよりヒアリングと意見交換を始めさせていただきます。

冒頭、知事から一言お願いいたします。

○小池知事 皆様、こんにちは。今日は、私立初等学校協会、そして父母の会連合会の皆様方にお越しいただきました。日頃より東京都の都政に対してのご協力、ご理解、誠にありがとうございます。そしてまた教育の多様なニーズに応じて伝統または特色のある教育を展開される私立の小学校、また、特別支援学校を支えていくため、皆様方ご尽力いただいているわけですが、その中でも昨今の現場のお声、また、ご要望など聞かせていただければと思いますので、どうぞよろしく願いいたします。

○司会 それでは、都政へのご要望お聞かせいただきますようお願いいたします。

○東京私立初等学校協会（田代会長） よろしく願いいたします。東京私立初等学校協会の会長、池袋にあります立教小学校の校長をしております田代正行と申します。よろしく願いいたします。

知事におかれましては、こういうような陳情を1日に7件も8件もお受けになられて、もういいかげんにしてとお思いかと思うんですが、我々としても申し上げたいことがあります。ましてまかり越しましたので、どうぞよろしくお付き合いくださいませ。

チルドレンファーストということで、どうしても教職員から言ってくれて言われたことが一つ、たくさんありまして、チルドレンっていうのは何歳までなんだと。通常15歳ぐらいまでなのか、それともその上はティーンエイジャーっていうのか、よく分からないんだけど、中学校のほうには10万円の補助が出ていて、ティーンエイジャーじゃない、チルドレンに何で補助が出ないんだって言ってきてくださいっていうのはよく言われてお

りまして、そこが今後、父母の会の会長さんからお話があらうかと思うんですが、私のほうからは経常費の補助を、大変厚かましいお願いなんですけれども、私立のお子様も、いろいろとこの頃ケアをしなければいけないお子さんが増えておりまして、そういうような形で教職員を増員しなければいけないとか、そういうようなことが起こっております。

私学としては先鞭を切った実践をしていくために頑張ってきているつもりではおるんですけれども、いろんなこと、物価の値上がりとか、そういうような光熱費の高くなっていることとかっていうのを勘案しまして、ぜひとも経常費の補助を拡充、公立並みにどうかお願いしたいということを、るほかにはあるんですけれども、知事にそんなにたくさん申し上げると申し訳ないなということで、あとは要望書のほうをご覧くださいと思いますので、私からは1点に絞ってということで、2点になりましたけれども、どうかご勘定くださいませ。よろしくお願いいたします。

○東京私立初等学校父母の会連合会（池田会長） 父母の会連合会の会長を拝命しております池田と申します。よろしくお願いいたします。私のほうからは、父母の会を代表いたしまして、公私間格差の是正をしていただきたいと毎回申し上げてるところでございます。

今年度より私立中学校の中学生に対して10万円の補助制度が設置されました。こちらに関しましては、所得制限も撤廃され、なぜ同じ義務教育の中学校だけなんだろうと。小学校の父母の会一同、不思議に思っております。小学生も中学生も同じ義務教育でございます。なおかつ、小・中とつながってる学校も多数ございます。そういう中で、私立の中での格差が今度生まれてしまうのかなと。ちょっとそれは父兄の中からも皆さん、どういうことなんだろうということで非常に困惑してる事態でございます。ぜひこの私立小学生に対しても、同じ条件での制度の設置をぜひ早急をお願いしたいところでございます。

もう一つございます。来年の1月から公立の小学校に対しての給食費の補助の拡大ということで、都のほうからの補助が拡大されることにお聞きしております。我々私立小学校に関しましては、全く給食費の補助をいただけてない状況でございます。一部、区によっては、都の補助と区の補助と合わせて補助をしていただけるような区もございますが、それに関しましては、あくまで区が動いていただかないと、全くそこにいる私立小学生は給食費を1円も補助していただけてないと。今回のパーセンテージからいきますと、ほぼほぼ都が公立小学校に対しての給食費の補助をされるということ、それであれば、ぜひその中に私立小学校も入れていただきたいというのがお願いでございます。

毎回申し上げますが、決して私立小学校に通う生徒の親は裕福な親とは限りません。子供に未来を託して明るい東京、明るい日本を目指すために、一所懸命、夫婦で共働きで働きながら、学費を納めてる状況の家庭が今、非常に多いです。そういう中で、この公私間の格差は非常にそういう意味では子供たちの将来を明るく照らすものでは今現在なっておりますので、その部分に関しましてぜひぜひお願いしたいところでございます。よろしくお願いいたします。以上でございます。

○司会 どうもありがとうございました。

それでは、まず知事からコメントをお願いいたします。

○小池知事 私のほうから、学校安全対策、環境整備などの補助の拡充強化についてのご要望についてお話ししたいと思います。

私立の学校ってということもあり、個性豊かな魅力ある教育を実践をされておられるわけでございます。教育条件の維持や向上を図るということは重要だと認識しております。私立小学校の運営の根幹をなします経常費の補助をはじめ、生徒の安全を確保する上で重要な学校施設の耐震化や省エネ化の推進についても支援をいたしておりまして、引き続き都として適切に対応してまいりたいと、私のほうからはその点お答えしておきたいと思えます。そちらのほうの要望書の中にあるかと思えます。

その他のご要望に関しまして、局長のほうからお答えをさせていただきます。

○司会 それでは、古屋生活文化スポーツ局長、お願いいたします。

○生活文化スポーツ局長 要望書におきまして、多岐にわたるご要望をいただいているところございまして、総括的にお話をさせていただきたいと存じます。

各学校建学の精神に基づいて、特色ある教育に尽力いただいているところでございます。今後ともその各学校が個性豊かな魅力ある教育を行えるように、経常費補助をはじめとして学校のデジタル環境整備ですとか防災力の向上の取組に対する補助ですとか、多様な補助を行っているところでございます。また、お話にございましたように、私立小学校に通う保護者の負担軽減に向けまして、今後とも経常費補助の適切な維持を図りまして、授業料減免に対する特別補助を行って、学校の具体的な取組を支援していきたいと存じます。

今後とも皆様方と十分にコミュニケーションを図りながら、連携しながら私学の振興、発展に向けた取組を進めてまいりたいと考えてございます。どうぞ引き続きよろしくお願ひ申し上げます。

○司会 よろしゅうございますでしょうか。ありがとうございます。

○小池知事 今2050年代の東京の姿を皆さんに投稿していただいております。ぜひ小学校でも、今、小学生は多分50年たつと、50年というか、あと20数年たつと中年になってということかと思えますけど、その頃どういう東京がいいかとか、ぜひ学校のほうでもお勧めいただいて、AIで分析していきたいというふうに考えております。ご協力よろしくお願ひいたします。

今日はどうもありがとうございました。

○司会 それでは、これもちましてヒアリングを終了とさせていただきます。本日はありがとうございました。

（東京私立初等学校協会・東京私立初等学校父母の会連合会 退室）

○司会 続きまして、東京都医師会の皆様でいらっしゃいます。

（公益社団法人東京都医師会 入室）

○司会 ありがとうございます。係員がご案内いたします。お席にお進みいただきますようお願いいたします。

それでは、早速ではございますが、これよりヒアリングと意見交換を始めさせていただきます。

冒頭、知事から一言お願いいたします。

○小池知事 尾崎会長をはじめとする医師会の皆様方には、日頃から都政へのご理解、ご協力賜っております。ありがとうございます。また、超高齢社会がますます加速して進む、そういう中で東京の医療問題に立ち向かって、都民の命、そして健康を守っていただく、そのために多くの事業にご尽力いただいております。

今日は、都民生活の最前線で日々活動されておられる皆さんでございます。ご意見、ご要望、直接伺えればと思いますので、どうぞよろしくをお願いいたします。

○司会 それでは、どうぞよろしくをお願いいたします。

○公益社団法人東京都医師会（尾崎会長） 今日はどうもありがとうございます。東京都医師会の尾崎と申します。よろしく申し上げます。

私ども14の重点要望をさせていただいておりますけれども、今日はその中で絞りまして8番の東京都独自の民間病院の支援についてということと、9番のサージキャパシティーとしての臨時医療施設、この2つの要望に絞ってお話を要望していきたいと思っておりますので、どうかよろしくをお願いいたします。

詳しい内容につきましては、担当の土谷副会長のほうから話をさせていただきますので、よろしくをお願いいたします。

○公益社団法人東京都医師会（土谷副会長） 副会長の土谷です。よろしく申し上げます。

こちらの概要版5ページの8番と9番になります。9番からお話しさせてもらいたいと思います。

感染症パンデミックや大規模災害時のサージキャパシティーとしての臨時医療施設の創設を要望いたします。こちらは、一気に増大する医療需要に対応するため、平時は訓練や研修を行います。感染症パンデミックや大規模災害発生時には、患者を速やかに収容するための施設の創設を要望します。施設への搬送手段の制限が生じる可能性が高いです。遠方まで搬送することは困難になると思います。ですので、その臨時医療施設は各区あるいは保健所単位での設置が望ましいと考えております。実際に今、都庁の方とも既に3回お話ししています。今、実現に向けて鋭意話し合っていきたいと思っております。ただ、今、話合いの中心となっているのが感染症が中心になっています。ですので、感染症だけじゃなくて、災害時の対応もぜひ一緒に話し合っていければと考えています。以上が9番になります。

そして8番に戻りたいと思います。こちらが一番の要望事項になります。

東京独自の民間病院支援システムの創設というところです。全国一律の診療報酬の中

で、東京の民間病院は未曾有の経営難に陥っています。未曾有といいますけれども、本当に病院潰れつつあります。潰れてきている病院もあります。実際に東京都の病院協会の調査によりますと、昨年度の調査では上半期で半分の病院が赤字となっています。都内にある全ての医療機関が一体となり、コロナをはじめ都民の健康を守っていると思っています。都立病院のみならず、民間病院を支える制度、具体的には東京都独自の入院基本料と民間病院を支援する部門の創設を要望したいと思います。

東京は、これまで、これからも高齢者が増えていきます。その高齢者っていうのは団塊の世代の人たちです。東京都の発展に尽くした人たちだと思っています。そういった方々がいざ入院しなきゃいけないといったときに、入院がコロナのときのようにできない、そういった事態が起きるかもしれないと思っています。この話は、都議会の先生たちにもお話ししています。都民ファーストや自民党、公明党の先生たちにもお話ししています。皆さん、東京の今後の医療について本当に憂慮をされています。この東京独自の入院基本料、これは小池都知事しかできないと思っています。都知事の決断になると思っています。何とぞご英断をお願いしたいと思います。よろしく申し上げます。

○司会 ありがとうございます。

それでは、まず知事からコメントをお願いいたします。

○小池知事 まず、8番、9番とご要望がございました。

8番目の民間病院の支援システムについてのご要望の件であります。これまで都は、ハードとソフトの両面から民間医療機関を中心に、必要に応じて財政支援など行ってきたのはご承知のとおりでございます。疾病や、また事業ごとに切れ目のない保健医療体制の整備、また、医療人材の養成や確保などの取組を推進をまいりました。また、振り返りますと、またコロナは本当に皆さん方にご協力いただいたわけでございますが、その後、コロナ禍以降の患者数や病床の利用率の減少に加えまして、このところの物価高騰、そしてまた人件費の増加が医療機関の経営に影響を及ぼしているというそのことを踏まえまして、先般、国に対しまして地域医療を確保するための医療機関支援について緊急要望をしたところでございます。引き続き民間医療機関に対しましては、保健医療提供体制の整備に向けまして、必要な支援を実施をまいります。またさらなる取組についても検討していきたいと、このように考えております。

その他ご要望については、局長のほうからお答えをさせていただきます。

○司会 それでは、雲田保健医療局長、お願いいたします。

○保健医療局長 では、私から9番の臨時の医療施設に関するご要望につきましてお話をさせていただきます。

もうご案内のとおりと、新興感染症発生時に迅速かつ的確に医療提供体制を確保するために、医師会などの皆様と先ほどお話ございましたように意見交換をさせていただきながら、臨時の医療施設を機動的に設置できる方法を検討をまいりまして、現在、医師会の皆様との調整を経て、候補法人ですとか候補施設の選定、調整に入っているところでござい

ます。また、講師の依頼にご協力もいただきまして、協定締結する機関の医療従事者向けに感染症対策の研修を実施をしているところでございます。それから災害発生時の対応につきましても、災害医療協議会におきまして、災害拠点病院の傷病者受入れ体制の拡充ですとか全国からの受援体制の強化あるいは災害関連死を防ぐための保健医療と福祉の連携などにつきまして検討をしていくこととしてございます。

私からは以上でございます。

○司会 ご要望いただきました2点につきまして、今、都として回答させていただきました。具体的には今後の予算編成過程の中でまた検討を進めてまいりたいというふうに考えてございます。

○公益社団法人東京都医師会（尾崎会長） 今まででもずっと何年間もこういう要望はさせていただいたんですが、過去では取り上げられることもなくて、今回そういう意味でやはり、かなりいろんな意味で担当部署の方も頑張っていたと思いますし、また、都のほうも真摯にいろいろ考えていただいていると今そういう印象を受けましたので、今後そういう予算の編成とか、そういう中でできるだけ私たちの要望が取り入れられるように期待しておりますので、どうかよろしくご検討のほどをお願いいたします。

○小池知事 別件なんですけれども、2050年代の東京の姿っていうので、皆様方からご提案やご要望などをまとめて、そしてAI解析をいたしましてまとめていきたいというふうに考えております。25年後ということになり、26年後ですか、になるかと思っておりますけれども、いろいろな東京の未来の図をちょっとここで改めて描いていこうというものでございます。医師会としてもぜひご協力よろしくをお願いいたします。

ありがとうございました。

○司会 それでは、これもちましてヒアリングを終了とさせていただきます。本日は誠にありがとうございました。

（公益社団法人東京都医師会 退室）